

## 未来へのリレー

福岡県 築城中学校 1年 山下 瑞喜

『親切な人は損をする』という話を聞いたことがある。

僕は、親切にしてもらったことが少ないせいか、自分にできる親切も、恥ずかしいという心があったり、声をかける勇気がなかったり、その言葉が頭をよぎってしまったりして、気がついているのに気がついていないフリをしてしまう。その後ろめたい気持ちが心の中でザワザワしてしまうことがよくある。

そんな僕が中学生になって、自転車通学を始めた。荷物が重く距離も遠いので、毎日とても大変だ。しかし、新しい友達、新しい学校にワクワクしながら部活にも入部して、荷物がいちだんと増えたある日、僕はついにバランスを崩して派手にこけてしまった。

すると、車で通りかかったおじさんが「大丈夫？」と声をかけてくれた。その「大丈夫？」というかけ声には、迷いや恥ずかしさなどまったく感じられなかった。僕は手も足も打っていて少し痛かったが、こけてしまって恥ずかしかったので、「大丈夫です」と答えて急いで自転車を起こし、そのまま一生懸命自転車をこいだ。すると、どんどん足や手が痛くなってきたけれど、僕はおじさんに声をかけてもらえたことが嬉しくて、いろいろな気持ちがゴチャゴチャとなりながら自転車をこぎ続けた。

家に帰り着いてけがの手当てをしながら、僕は今日のおじさんのように、目の前でこけたりして困っている人がいたら、損得なんて関係なく、見て見ぬふりをせずに、さっと行動のできる大人になりたいと強く思った。それと同時に、あのときどうしておじさんに、「声をかけてくれてありがとうございます」と言えなかったのだろう、という後悔の気持ちが大きくなっていった。

「ありがとう」という言葉は、僕だけじゃなくいろいろな人に喜んでもらえる魔法の言葉だと思っている僕は、なるべくうれしいときや感謝の気持ちを伝えるために、声に出して「ありがとう」と言うようにしている。そうすることでまわりの友達も、今よりももっとやさしい気持ちになってくれるような気がする。

僕にとって「親切」というものは、してあげたからして返してほしいというものではなく、困っている人を見かけたら損得など考えずに声をかけ、手を差し伸べることだと思う。そして、僕と同じように、恥ずかしかったり勇気が出せなくて行動に移せない人の背中を押してくれる、リレーのバトンのように思う。

僕は、この受け取ったバトンを今すぐに次に渡すことはできないかもしれないけれど、いつか胸を張って渡せるように、誰に対しても平等でやさしい人になりたいと思う。そして、いつの日か僕のバトンが、誰かの背中を押して親切のリレーが続いていけば、未来の世界はとてつもなくやさしいものになるだろうと思う。